



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

2022年度 業務報告会

相互運用性委員会 活動報告

2023年2月20日
相互運用性委員会
委員長 木村 雅彦

- 今年度の事業計画
- 今年度の活動成果
 - (1)JAHIS標準類の策定
 - (2)実装システムの検証
 - (3)標準化の普及推進
- 来年度の実業計画

(1) JAHIS標準類の策定

- データ交換規約の共通課題に取り組み、その結果をデータ交換規約(共通編)や必要に応じて個別編に反映する。(適合性宣言書の拡張など)
- 既存の標準類については、制定後3年経過を目途に改版を行い、より実践的なものにすべく機能拡張を図っていく。(処方、注射、病名など)
- これまで十分な検討がされていない新たなテーマや技術標準については、部会や委員会を超えて合同で検討を行う。(HL7 FHIRなど)

(2) 実装システムの検証

- 過去16年間(実証事業の3年間を含む)行ってきたJAHISデータ互換性実証実験を継続し、HL7 FHIRを使用したテーマに取り組む(診療情報提供書など)
- 各種ツールの整備やテーマの拡大も図る。(HL7 FHIR対応など)

(3) 標準化の普及推進

- 他の標準化プロジェクトや団体で策定された標準類との整合を図りながら、関係者と密接に連携して普及活動を行う。セミナー(講習会)等も企画する。
- IHE WGを発足し、IHE International の国際会議への委員派遣や投票活動を行う。得られた知見をJAHIS 標準の改善、新たなJAHIS 標準類の制定などに役立てる。

① データ交換規約(共通編) Ver.1.3

適合性宣言書に基づく適合性の採用、HL7規格日本語見直し版への対応、コード表へのOIDの付番、被保険者証の枝番への対応、各種障害の重症度表現への対応、外部出版社編集者による校正の試行への対応、などを行い、2022年4月にJAHIS標準として制定済み

② 放射線データ交換規約 Ver.3.2C

③ 内視鏡データ交換規約 Ver.3.2C

④ 生理検査データ交換規約 Ver.3.1C

制定後3年を経過したため、データ交換規約(共通編)Ver.1.3への対応、HL7規格日本語見直し版への対応、コード表へのOIDの付番、などを行い、2022年4月にJAHIS標準として制定済

～ 策定作業中のJAHIS標準類 ～

⑤ 注射データ交換規約(共通編) Ver.2.2C

制定後3年を経過したため、データ交換規約(共通編)Ver.1.3への対応、HL7規格日本語見直し版への対応、コード表へのOIDの付番などを行い、**ドラフトの作成とレビューを実施中。来年度中の制定を目指す。**

JAMI処方・注射標準用法規格の採用、調剤関係のメッセージの新規追加を目指していたものの、検討の結果いずれも今回は見送りとなった。

**→ 予定していた病名、処方の改版作業には着手できず
関係者が重なっており、順番に作業せざるを得ない**

- メッセージ交換専門委員会での活動
 - ◆ データ交換規約の共通課題への取り組みとして、**オーダー付帯情報の共通化**を検討中
 - ◆ 関係する部門システムや電子カルテシステムで使用している付帯情報を各委員から提供してもらっており、今後共通項目を洗い出す予定
 - ◆ 来年度中には整理して、次回の共通編の改版につなげたい

- 新設したIHE WGでの活動
 - ◆ 昨年度からJAHISとして加盟した **IHE International**の投票案件の対応(今年度は実績なし)
 - ◆ IHEの各ドメインでの活動状況についての**情報共有**や各ドメインに関する**勉強会**の実施
 - ◆ **RSNA**の視察、**IHE国際会議**、**DICOM DSC**へのオブザーバ参加とそのフィードバック
 - ◆ 「**国際標準化総覧**」のIHEパートの執筆

～ 今年度は実施断念 ～

17年目

JAHISデータ互換性実証実験2022

- JAHIS技術文書「**基本データセット適用ガイドライン**」に基づいて自社システムに実装し、シナリオに沿ってデータ互換性を検証する
- 一通り検証が完了したため、今後重要な技術になると思われる**HL7 FHIR**に取り組んでいる
- 参加予定ベンダが少なかったため、**来年度に繰り延べ、それに向けた準備のみ実施している**
- 実施予定テーマ：
 - ①患者情報(基本)
 - ②診療情報提供書
- トピック：
 - (1) **JP Core**に基づくPatientリソースのエクスポート・インポート
 - (2) **診療情報提供書HL7 FHIR記述仕様**に基づくBundleリソースのエクスポート



※写真はコネクタソン会場で開催した2019年度の様子

①日本医療情報学会(標準策定・維持管理部会)、日本HL7協会、日本IHE協会等との連携や外部の標準化活動への委員派遣

- SS-MIX2の仕様書やIHE-JのTF基本仕様へのデータ交換規約の採用
- 第81回HL7セミナー:「SS-MIX2入門」の講演(6/30)
- JAMI NeXEHRs課題研究会 HL7 FHIR日本実装検討WG(計10回)
- FHIRファサードアダプタ入出力仕様検討会議(計5回)
- 口腔診査情報標準コード仕様メンテナンス委員会
- ヘルス&ケアのマネジメントにおけるプロセスとデータのモデル委員会

② JAHISデータ互換性実証実験の成果や各種ツール類のHPでの公開

- 1) JAHISデータ互換性実証実験の報告(2010~2021)
- 2) HL7メッセージ作成支援ツール(Ver.1.2~Ver.1.10)
- 3) HL7辞書ユーティリティ(Ver.1.0~Ver.1.3)

公開場所: [トップ](#) » [活動と報告](#) » [実証実験・ツール](#) » ...

③「薬剤に関する医療情報セミナー」の開催(10年連続)

日時:2023年1月30日(月) 14:00~17:00

場所:WebEx Eventsを使用したオンラインセミナー

講師:土屋 文人 先生(元国際医療福祉大学 薬学部 特任教授)

池田 和之 先生(奈良県立医科大学附属病院 薬剤部)

題名:薬剤部門に関する最近の話題

—変わりゆく薬剤師業務と情報システムの関わり—

④ その他の対外活動

◆ 第42回医療情報学連合大会:

HELICSチュートリアル:「JAHISデータ互換性実証実験」講演(11/17)

◆ 第42回医療情報学連合大会:

共同企画2:保健医療福祉情報システム工業会/日本病院薬剤師会
「運用直前 電子処方箋をめぐる諸課題を考える」共同座長(11/18)

◆ 新設したIHE WGやHIS-RIS WGの立場から、RSNAの視察およびその
中で行われたIHE国際会議、DICOM DSCへのオブザーバ参加(11月末)

(1) JAHIS標準類の策定

- データ交換規約の共通課題に取り組み、その結果をデータ交換規約(共通編)や必要に応じて個別編に反映する。(オーダ付帯情報の共通化など)
- 既存の標準類については、制定後3年経過を目途に改版を行い、より実践的なものにすべく機能拡張を図っていく。(処方、病名など)
- これまで十分な検討がされていない新たなテーマや技術標準について、HL7 FHIRなども活用した検討を行う。(部門からの電子カルテデータの参照など)

(2) 実装システムの検証

- 過去16年間行い、今年度実施できなかったJAHISデータ互換性実証実験を再開し、HL7 FHIRを使用したテーマに取り組む(診療情報提供書など)
- 各種ツールの整備やテーマの拡大も図る。(HL7 FHIR対応など)

(3) 標準化の普及推進

- 他の標準化プロジェクトや団体で策定された標準類との整合を図りながら、関係者と密接に連携して普及活動を行う。セミナー(講習会)等も企画する。
- IHE WGでの情報共有や勉強会、RSNA、IHE国際会議等への参加を継続する。
- 今年度内に次世代データ交換技術WGを発足し、HL7 FHIRをはじめとする次世代データ交換技術についての情報共有や意見交換を行う。

次世代データ交換技術WGの新設について

- 政府の各種施策での採用、FHIR記述仕様の厚労省標準化、診療報酬改定で対応状況の報告の義務化、関連する学会発表の増加など、医療情報の標準化においてHL7 FHIR等の次世代データ交換技術の重要性が増している
- そこで、医療システム部会内でこれらの技術に関する情報共有や意見交換、スキルの底上げを行う場として、「次世代データ交換技術WG」を新設する予定
- これらの技術に関してJAHISの見解をとりまとめる役割は持たず、情報共有と意見交換を目的とする
- 特定の分野(セキュリティ、電子カルテ、地域連携など)でのJAHIS標準類の策定は、該当分野の委員会やWGで行うことを想定し、本WGでは行わない
- JAHIS会員企業で、これらの技術に関する活動をしていたり、関心のあるメンバーに広く参加いただきたい
- 活動頻度は月1回2時間程度を想定。WG内での勉強会なども企画する
- JAMIのHL7 FHIR日本実装検討WGで活動中のメンバーには、個別に参加を依頼する予定

～ HL7 FHIRにご興味のある皆様のご参加をお待ちしています ～



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

ご清聴ありがとうございました